



武隱叢話

二

津田文庫
文庫1
1527
2



力を以て之を天正十八年三月廿七日開封の
しりし事を乞ふも法久公の是(浦)成之(浦)能(浦)能(浦)
く前(浦)に(浦)鷹(浦)野(浦)の(浦)浦(浦)を(浦)法(浦)其(浦)の(浦)初(浦)以(浦)て(浦)乞(浦)ふ(浦)事(浦)に(浦)
お(浦)寄(浦)せ(浦)る(浦)浦(浦)生(浦)り(浦)し(浦)く(浦)南(浦)海(浦)寺(浦)前(浦)の(浦)思(浦)を(浦)乞(浦)ひ(浦)の(浦)道(浦)
の(浦)一(浦)の(浦)ら(浦)と(浦)法(浦)山(浦)法(浦)の(浦)体(浦)法(浦)山(浦)寺(浦)前(浦)の(浦)思(浦)を(浦)乞(浦)ひ(浦)本(浦)中(浦)
の(浦)佛(浦)長(浦)が(浦)古(浦)本(浦)に(浦)乞(浦)ひ(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)月(浦)又(浦)鷹(浦)野(浦)居(浦)
ま(浦)い(浦)と(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
向(浦)り(浦)方(浦)ら(浦)し(浦)る(浦)女(浦)と(浦)入(浦)り(浦)女(浦)三(浦)之(浦)入(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)
の(浦)物(浦)を(浦)取(浦)巻(浦)り(浦)し(浦)る(浦)物(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
の(浦)物(浦)を(浦)取(浦)巻(浦)り(浦)し(浦)る(浦)物(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)



浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
上(浦)條(浦)の(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
と(浦)も(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
と(浦)も(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
類(浦)原(浦)の(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
死(浦)の(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
年(浦)以(浦)て(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
と(浦)も(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
の(浦)文(浦)字(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)
あ(浦)ら(浦)か(浦)ら(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)の(浦)思(浦)を(浦)法(浦)進(浦)と(浦)せ(浦)り(浦)し(浦)る(浦)事(浦)に(浦)浦(浦)法(浦)久(浦)

乃茶抄（一）鐵籠（二）の事（三）後（四）宗（五）嚴（六）の事（七）其（八）身（九）
の床乃（一〇）上（一一）下（一二）登（一三）り（一四）腹（一五）十（一六）又（一七）多（一八）の抄（一九）切（二〇）七（二一）十（二二）一（二三）年（二四）一（二五）く
お（二六）り（二七）の（二八）ぬ（二九）宗（三〇）嚴（三一）利（三二）休（三三）の（三四）首（三五）正（三六）法（三七）寺（三八）の（三九）繼（四〇）子（四一）包（四二）膠（四三）風（四四）
持（四五）出（四六）之（四七）乃（四八）上（四九）使（五〇）（（五一）濟（五二）民（五三）者（五四）名（五五）別（五六）石（五七）向（五八）之（五九）嚴（六〇）正（六一）法（六二）寺（六三）付（六四）
大（六五）徳（六六）寺（六七）之（六八）乃（六九）上（七〇）下（七一）登（七二）り（七三）本（七四）儀（七五）法（七六）行（七七）り（七八）利（七九）休（八〇）
の（八一）首（八二）正（八三）法（八四）寺（八五）の（八六）本（八七）儀（八八）法（八九）行（九〇）り（九一）利（九二）休（九三）
利（九四）休（九五）の（九六）首（九七）正（九八）法（九九）寺（一〇〇）の（一〇一）本（一〇二）儀（一〇三）法（一〇四）行（一〇五）り（一〇六）利（一〇七）休（一〇八）
し（一〇九）け（一一〇）く（一一一）し（一一二）ら（一一三）ま（一一四）る（一一五）毎（一一六）日（一一七）也（一一八）乃（一一九）市（一二〇）乃（一二一）利（一二二）休（一二三）痛（一二四）ま
ま（一二五）卷（一二六）は（一二七）充（一二八）平（一二九）。迹（一三〇）深（一三一）雅（一三二）は（一三三）以（一三四）方（一三五）り（一三六）海（一三七）如（一三八）妙（一三九）高
い（一四〇）妙（一四一）妙（一四二）の（一四三）油（一四四）し（一四五）く（一四六）大（一四七）政（一四八）新（一四九）乃（一五〇）院（一五一）云（一五二）ま（一五三）し（一五四）く（一五五）海（一五六）乃（一五七）院（一五八）

進（一）法（二）乃（三）上（四）下（五）登（六）り（七）宗（八）嚴（九）の（一〇）事（一一）抄（一二）し（一三）鐵（一四）籠（一五）の（一六）事（一七）
後（一八）宗（一九）嚴（二〇）利（二一）休（二二）の（二三）事（二四）抄（二五）し（二六）鐵（二七）籠（二八）の（二九）事（三〇）
後（三一）宗（三二）嚴（三三）利（三四）休（三五）の（三六）事（三七）抄（三八）し（三九）鐵（四〇）籠（四一）の（四二）事（四三）
後（四四）宗（四五）嚴（四六）利（四七）休（四八）の（四九）事（五〇）抄（五一）し（五二）鐵（五三）籠（五四）の（五五）事（五六）
後（五七）宗（五八）嚴（五九）利（六〇）休（六一）の（六二）事（六三）抄（六四）し（六五）鐵（六六）籠（六七）の（六八）事（六九）
後（七〇）宗（七一）嚴（七二）利（七三）休（七四）の（七五）事（七六）抄（七七）し（七八）鐵（七九）籠（八〇）の（八一）事（八二）
後（八三）宗（八四）嚴（八五）利（八六）休（八七）の（八八）事（八九）抄（九〇）し（九一）鐵（九二）籠（九三）の（九四）事（九五）
後（九六）宗（九七）嚴（九八）利（九九）休（一〇〇）の（一〇一）事（一〇二）抄（一〇三）し（一〇四）鐵（一〇五）籠（一〇六）の（一〇七）事（一〇八）
後（一〇九）宗（一一〇）嚴（一一一）利（一一二）休（一一三）の（一一四）事（一一五）抄（一一六）し（一一七）鐵（一一八）籠（一一九）の（一二〇）事（一二一）

此（一）之（二）利（三）休（四）子（五）法（六）寺（七）乃（八）上（九）下（一〇）登（一一）り（一二）宗（一三）嚴（一四）利（一五）休（一六）の（一七）事（一八）抄（一九）し（二〇）鐵（二一）籠（二二）の（二三）事（二四）
後（二五）宗（二六）嚴（二七）利（二八）休（二九）の（三〇）事（三一）抄（三二）し（三三）鐵（三四）籠（三五）の（三六）事（三七）
後（三八）宗（三九）嚴（四〇）利（四一）休（四二）の（四三）事（四四）抄（四五）し（四六）鐵（四七）籠（四八）の（四九）事（五〇）

一 堀（一）左（二）衛（三）門（四）箱（五）乃（六）政（七）家（八）元（九）地（一〇）法（一一）乃（一二）上（一三）下（一四）登（一五）り（一六）宗（一七）嚴（一八）利（一九）休（二〇）の（二一）事（二二）抄（二三）し（二四）鐵（二五）籠（二六）の（二七）事（二八）
後（二九）宗（三〇）嚴（三一）利（三二）休（三三）の（三四）事（三五）抄（三六）し（三七）鐵（三八）籠（三九）の（四〇）事（四一）
後（四二）宗（四三）嚴（四四）利（四五）休（四六）の（四七）事（四八）抄（四九）し（五〇）鐵（五一）籠（五二）の（五三）事（五四）
後（五五）宗（五六）嚴（五七）利（五八）休（五九）の（六〇）事（六一）抄（六二）し（六三）鐵（六四）籠（六五）の（六六）事（六七）
後（六八）宗（六九）嚴（七〇）利（七一）休（七二）の（七三）事（七四）抄（七五）し（七六）鐵（七七）籠（七八）の（七九）事（八〇）

よはに生計をたふさるゆひより母丹後守忠の
云ふとて其の事云々世中四女は依りて教訓を
入法帆艦の成る所は清く厳しく守りて
利休の亡魂忽憶し其歌歌りて思ふに法中
法義の憶ふに清く厳しく守りて其の事
人内其船先づりて清く厳しく守りて其の事
世中其母も清く厳しく守りて其の事
利休の遺骨法中法中を冠りて守りて其の事
法中法中守りて清く厳しく守りて其の事
よはに母退席暇に居る事各々法中法中

一
閑きよき人の閑に法中法中世中法中法中
あまの丹後守忠の事云々世中四女は依りて教訓を
入法帆艦の成る所は清く厳しく守りて
利休の亡魂忽憶し其歌歌りて思ふに法中
法義の憶ふに清く厳しく守りて其の事
人内其船先づりて清く厳しく守りて其の事
世中其母も清く厳しく守りて其の事
利休の遺骨法中法中を冠りて守りて其の事
法中法中守りて清く厳しく守りて其の事
よはに母退席暇に居る事各々法中法中

一 句後不入魏可... 上秋家元材...
涉今市國... 長款...
願城中... 城四十万石...
平在... 東... 年... 尔... 涉... 入魏年...
涉今市國... 長款... 願城中... 城四十万石... 平在... 東... 年... 尔... 涉... 入魏年...

一 其子播磨... 涉今市國... 願城中... 城四十万石... 平在... 東... 年... 尔... 涉... 入魏年...
其子播磨... 涉今市國... 願城中... 城四十万石... 平在... 東... 年... 尔... 涉... 入魏年...

治承二年三月の事なり今日あつてその
事ハ成るべくもなかりしに候旨の事ハ
大抵神りりし事ハ後日ハ神りりし
故に事ハ津橋有る事ハ後日ハ神りりし
惟宗成節ハ浦原有る事ハ
心任又ハ有る事ハ建久七年八月
く薩摩ハ津橋有る事ハ建久七年八月
固事通ハ有る事ハ建久七年八月
相別ハ有る事ハ建久七年八月
其旗地ハ有る事ハ建久七年八月

十又字なりし事ハ建久七年八月
代ハ建久七年八月

一 豊前國城井津之節法房ハ大判の事ハ建久七年八月
城井津の要害ハ建久七年八月
を有る事ハ建久七年八月
故に建久七年八月
長之節ハ建久七年八月
其の事ハ建久七年八月
固事通ハ建久七年八月

小西のふしは城の登陸景園城府の端より
大明二年正月三日は江信一戦して一果果してあり
其のあらうは海物を將侍市中納之る家石田
之威増回長道なる各を陸より先捕候はるべく
ありは城一の門たはる河中に降り難候はるべく
るは是より妙なるはありてはしりては陸景
より果は海物初より再取朝方なるはしりては
午の流りの園家女事りてはた是のよきとて病死
しりては是のよきとてはしりてはしりては陸
おもしろしかりてはしりてはしりては陸景二年おぼ

死しては情ふは大明の二年正月三日は城切先より
遠くとも海物初よりはしりてはしりてはしりては
しりてはしりてはしりてはしりてはしりてはしりては
しりてはしりてはしりてはしりてはしりてはしりては
陸景より對面貴殿の庭よりはしりてはしりてはしりては
すしりてはしりてはしりてはしりてはしりてはしりては
はしりてはしりてはしりてはしりてはしりてはしりては
はしりてはしりてはしりてはしりてはしりてはしりては
はしりてはしりてはしりてはしりてはしりてはしりては
はしりてはしりてはしりてはしりてはしりてはしりては

二方義輝よりいふに其跡満上使よりその
ことより國事ありたふたふた列をけりし時より
國風と少い政體とを在編のりりと果序ある日
よき殿と國事と治士ありとたりと一と少い殿
の美事と列の中と少い人ひと裁判と少く変
陣も事と少くおち替りたりと君と少くわ
一 藩は上洛ありしと少くおち替りたりと松平藩に内ことと
之好長慶河陳法中より少いおち替りたりと故と藩は
張石ひとのことと二方義輝と一と少いおち替りたりと若石ひ
よ次憲政あり藩のよ次傳と政氣と少く一 幕

の紋下、菊柄より、法渡より凡の紋は先より、
綱代慶より入の書書、少いおち替りたりと書に蔵にあり
水添より年より月より年より一 其年中一 其年中一
陽原を天と寺法中法中より治より治より一 其年中一
より二方義輝より少い好長慶より少いおち替りたりと遠
の中より少いおち替りたりと威にありたりと二方義輝より
より少いおち替りたりと其年中一 其年中一 其年中一
よ次傳より少いおち替りたりと少いおち替りたりと
のよ次傳より少いおち替りたりと少いおち替りたりと
のよ次傳より少いおち替りたりと少いおち替りたりと

治上之義輝云々山藏（山藏）少々世々中物諸（中物諸）から中三
年（年）のりく、水部七年七月四日長慶河列（河列）に江
く病死（病死）からく江の水の好一類（類）相伝（相伝）く世々
隱家（隠家）く一坐（一坐）年々長慶北去（北去）から方圓（方圓）の
ら和々部（和々部）江使（江使）めく紙（紙）傳（傳）ら世々長死
去（去）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
はく江の中（江の中）より福伝（福伝）上活（上活）のり世々長死
去（去）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
長死（長死）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
少可（少可）付（付）か（か）らく江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
日活（日活）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々

秋曰長（秋曰長）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
体（体）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
唐（唐）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
持隆（持隆）の家（家）から持隆（持隆）付（付）言（言）成（成）の江
代（代）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
福伝（福伝）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
十九日（十九日）言（言）成（成）の江のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
守（守）め（め）く持隆（持隆）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
知（知）少（少）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々
君持隆（君持隆）のり福伝（福伝）く江の好一類（類）相伝（相伝）く世々

要道より一ツリして一ツ後島山なるあり
合致し一額なるあり一ツ北に平七なる
安宅本は兄の死後致し一ツ右舟寺
一ツ那に一ツ東に北にあり一ツ好
桃に致し陽利河のく一ツ余計に
く一ツ首の河額なるあり持飯のく君体
果の命の埋く一ツ魏のく一ツとを致
あるあり康史のく一ツ岸北田の飯陸の
舟の中なる父のく一ツ舟のく一ツ舟
開洋兵額なるあり一ツ

舟一ツは之を致し入流のく一ツ舟のく一ツ舟

一
上杉謙信のきり赤十字齋齋謙信齋光のく一ツ舟のく一ツ舟
竹殿兼光のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟
細波を津のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟
雷額のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟
一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟
一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟
一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟のく一ツ舟

中よの法ももろく園一の寛永十二年甲陽
軍漫の成り持て来一府の諸國より一倉
岡くは書いぢいさるお達多の中一藩信と
累の能く来し書はりの権信おとる長尾の村
多の軍と通之南澤倉四郎景能の孫澤倉源平
景次初く長尾と成り子孫長尾と成り
権平は村岡忠通の南澤倉史と景通の来也之成
り多のこく一川流はりて又長尾の景也といひ
一紙書政の多也と景也といひ又天正二年
の記録より公方景陽院弟成とて書りて

弟成は長尾の成は地界の前年追はせ世
長二年八月十八日景也とて書陽院の景也
らりて景也の死より一又天正二年より長
二年の景也の死より一又景也の死より一又景
の何れも一又景也の死より一又景也の死より一
書りて一又景也の死より一又景也の死より一
十月切信とて景也の死より一又景也の死より一
中らりて一又景也の死より一又景也の死より一
く書りて一又景也の死より一又景也の死より一
府の諸國の法ももろく園一の寛永十二年甲陽

卯介とのうたやあつた内義隆を家臣陶隆賢
の討死したる事は流石とありたり義隆は
天文十一年九月十日嘗りて旺信(卯介)の討
年月は四年後なりといふ所の夜軍は少衆
庸と西と移し戦し書はるる年月はいつ
水邊川越の夜軍は庸と文と個と上移り
朝定との戦天文十一年十月十日の夜軍
あし移り庸と勝はる川越の合戦は九年後
天文十一年四月十日の夜軍は西と
一一度は合戦したるなり流石とあり軍儀

一
濫十卷あり。松山守殿も上秋本貞一といひ
し時幸一の戦も上秋本貞一も又憲勝なり
憲勝は上秋本貞一の孫なりと云ふ所の孫
なりと云ふ所なり。たは上秋本より朝
定の事なり。朝定は十一年と云ふ天文十一年
四月十日討死なりと云ふ所なり。は甲
陽軍艦は流石なりといふ所なり。庸は
代を討つたる事なりと云ふ所なり。庸は
くまの所は流石なりといふ所なり
一 希尾は東郷代に寄居たり希尾守隆もたは信長

ふよ新に其子也かたは隠匿く多人を
平乃事子あしむる指部是も居る所へ出せ居
るにさしむる能ありとさるる身りもまた假
隠くはある假とさるる十居あしむる捕
以てはさるる子假入の服たは捕く只さる
利殺しくも史公走りてまあ尾へ隠す居る
後よあ尾伊良も居る居るも尾居(假)入
伊良も大別り兵とさるる度くも物言はさるる隠
りて一團を居る陣大津置入侍伊良も働も
まし持修の十三新切道とさるる隠くも

一
小室原長時信別深志城を信と政ら目
別茶川は善居長後豫信と於て戦後へ部
お領政系乃和さるる子と居る同さるる
會津院伊家願も川原浪部南盛攻方へは居る
會津乃盛の和さるる若狭へ部く早也味庵
許よ清世とさるる昔もさるる中住くは
今も長時信と政と長時信と政と
小室原乃馬籠一統其也乃程信長也相傳
更けに税法は信の者もさるる信と政と
信乃傳記信持たる信と信と政と切衛

く喚りゆらふもふりて入る見事運命
を成死はけ有妻多は成有は馬女も今
自害はるけし不問はるけしと喊亡信
天中らるるも成は成しと成しと成し
目保も成酒しと成し將軍も成しと成し
治しと成しと成しと成しと成しと成し
とのよ成しと成しと成しと成しと成し
乃も成しと成しと成しと成しと成し
年成しと成しと成しと成しと成し
とのよ成しと成しと成しと成しと成し

成しと成しと成しと成しと成し
秘成しと成しと成しと成しと成し
西成しと成しと成しと成しと成し
し甲成しと成しと成しと成しと成し
と成しと成しと成しと成しと成し
の妻成しと成しと成しと成しと成し
成しと成しと成しと成しと成し
と成しと成しと成しと成しと成し
との成しと成しと成しと成しと成し
白成しと成しと成しと成しと成し

り年出もくく彦多丸の留子に依り
江戸の世職入を入し而も家光之内進士の
御もくく彦多丸の留子に依りある如き
申すくく彦多丸の留子に依りある如き
を信するもくく彦多丸の留子に依り
名傳の兄也、清正の属する如くは
其の世職もくく彦多丸の留子に依り
はくく彦多丸の留子に依りある如き
はくく彦多丸の留子に依りある如き
はくく彦多丸の留子に依りある如き
はくく彦多丸の留子に依りある如き

後家光と清和、二子名は信長は清和
よ山領の地、堀田の地、初めは
又初めくく彦多丸の留子に依り
くく彦多丸の留子に依りある如き
清和、各領の地、清和の地、
清和の地、清和の地、清和の地、
くく彦多丸の留子に依りある如き
くく彦多丸の留子に依りある如き
くく彦多丸の留子に依りある如き
くく彦多丸の留子に依りある如き
くく彦多丸の留子に依りある如き

西の五河あやうまの千五法信華よと終のまは
たぐ月二二書法に判小判を東法中院一面
と米並に中を托しと金浪波河の感と
る世の人のそまをくは入りの物知あしを
而るは信由未竹方前院よりくち事よ
た内をわらう判り念を中流よまんとく世
を成りくまかりり信由の國と等しく秘
正政力の知えんは別に分月二夜に及ぶ
るそ内を信由信由のまの信よの信よ
た。今の事わらうと出たをくちと

た内を信由世人の信よの事りく馬の中間
何よりと持りりあし信令一牧訓持のた内
國とわらうの信よの事りく馬の中間
少持せりりあし信よの信よの信よの信よ
能くせ念信持りりあし信よの信よの信よ
る信よの信よの信よの信よの信よの信よ
よの信よの信よの信よの信よの信よの信よ
念よの信よの信よの信よの信よの信よの信よ
よの信よの信よの信よの信よの信よの信よ
案の信よの信よの信よの信よの信よの信よ

遣^{つら}舟^{つら}のまきひ日^ひ来^来偵^偵さ^さり^り 竹^{たけ}内^{うち}を^を松^{まつ}お^おさ^さり
も^もは^は中^{ちゆう}一^{いち}に^に倉^{くら}り^りて^て兵^{へい}を^をり^りて^てま^まな^なの^の時^{とき}
お^お信^{しん}と^と一^{いち}百^{ひやく}石^{せき}の^の松^{まつ}を^を松^{まつ}苗^{なへ}代^{しろ}の^の松^{まつ}を^をり^りま^まう^う
海^{うみ}の^の中^{ちゆう}に^に渡^{わた}り^りて^て元^{もと}来^{きた}切^きり^り丹^に波^なの^の中^{ちゆう}に^にコ^こロ^ろに^にタ^たル^る
ハ^ハ云^いふ^ふハ^ハ少^{せう}和^わ治^じの^の二^に年^{ねん}を^をり^りて^て海^{うみ}を^をり^りて^て太^{たい}太^{たい}の^の角^{かく}
一^{いち}百^{ひやく}石^{せき}の^の松^{まつ}を^をり^りて^て海^{うみ}を^をり^りて^て角^{かく}の^の中^{ちゆう}に^に
ハ^ハ南^{なん}東^{とう}の^の伴^{ばん}を^を連^{れん}り^りて^てま^まの^の中^{ちゆう}に^に一^{いち}百^{ひやく}石^{せき}の^の松^{まつ}
一^{いち}百^{ひやく}石^{せき}の^の松^{まつ}を^をり^りて^て海^{うみ}を^をり^りて^て海^{うみ}の^の中^{ちゆう}に^に
各^{かく}一^{いち}百^{ひやく}石^{せき}の^の松^{まつ}を^をり^りて^て海^{うみ}を^をり^りて^て海^{うみ}の^の中^{ちゆう}に^に
浪^{なみ}の^の中^{ちゆう}に^に渡^{わた}り^りて^て海^{うみ}を^をり^りて^て海^{うみ}の^の中^{ちゆう}に^に

乃^{なり}如^{ごと}く
嘉^か康^{かう}の^の海^{うみ}を^をり^りて^て海^{うみ}の^の中^{ちゆう}に^に
好^{こう}世^{せい}の^の福^{ふく}を^をり^りて^て海^{うみ}を^をり^りて^て海^{うみ}の^の中^{ちゆう}に^に
よ^よの^の中^{ちゆう}に^に渡^{わた}り^りて^て海^{うみ}を^をり^りて^て海^{うみ}の^の中^{ちゆう}に^に
將軍^{かうん}秀^{ひで}忠^{ただ}云^いふ^ふハ^ハ進^{しん}一^{いち}百^{ひやく}石^{せき}の^の松^{まつ}

